ももくいしんぼう
すけっちびより

第6回

ここにおわす、大きな山のふもとをぐるぐると

畑の真ん中のそびえ立つ大きな山「羊蹄山」。蝦夷富士とも呼ばれている山だ。元来日本人はこのような円錐形をした山が好きなんだそうだ、という文章をいつかどこかで読んだことがある。確かに、山脈の連なりではなく、すっくと大地に鎮座しているような大きな山は、見ていて気持ちが落ち着くとともに、心が晴れやかになる。しかし、近づいて行くとどんどん視界からその姿が消えていき、少し寂しくなるのだから山は不思議だ。

山は古来から神聖な場所として、あの世とこの世をつなぐ場所であったり、日本の信仰の対象であった。また、アイヌの世界でも山は神様そのものだ。山懐に抱かれ…そんなタイトルの本もあるけれど、この羊蹄山の周りは、こんな表現がとても合う。どの場所から見てもその姿は雄大で、天気や季節によっていろいろな表情が見える。

春の桜の季節には、真狩神社からの風景がとても素敵だ。桜が羊蹄山の残雪にとても良く映えて美しい。これは北海道ならではの風景に違いない。また、倶知安の小川原脩記念美術館のロビーは、大きなガラス窓が羊蹄山の方向に向けられていて、どの季節に行っても、絵を鑑賞するように羊蹄山を眺められる。また、ニセコ側の有島記念館からの風景も素敵だ。おいしいコーヒーをいただきながら羊蹄山を眺めたい。もっとも、畑の向こうの羊蹄山は、真狩のジャガイモ畑から見ても、他のどの地域から見ても豊かな恵みを与えてくれているように見えて、なぜかとてもありがたくなる。

羊蹄山の懐に抱かれたこの地域にたくさんの名所があるのは、やはり神が宿る山だからなのだと思う。以前このコラムに書いたが、山育ちの私は山が見えるところが好きだというより安心する。山懐に抱かれて安心できる場所があるから、海を渡って行ける。羊蹄山のそばにいると、そんな勇気をもらうのである。

すずき　もも
イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。代表作に「さっぽろおさんぽ日和」（北海道新聞社）、近著に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）と2018年１月に出版した「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。また、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。モットーは4つのS。「Simple,Slow.Small.Smile：ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこと」。

有島記念館の中にもあるよ！
高野珈琲
自家焙煎珈琲とおいしいデザート！
(ニセコ町)
Ruhiel ルヒエル
イタリアンジェラート屋さん
いろんなフレーバーがあるよ♡
(倶知安)
羊蹄山のふもとにはおいしいものがいっぱい
トゥルモン(真狩)
コンフィチュールマサコさんのジャムやデザート！
ソーケッシュ製パン＋トモエコーヒー
しっかりとした小麦のパンとコーヒー！
(喜茂別)